

「昨日よりも今日を 今日よりも明日を」

校長 末 永 勝 明



今、附属学校は大きな変革の時期を迎えています。社会の急速な変化、時代の要請もあり、国立大学教育学部、教職大学院、そして附属学校園の存続やあり方について問われはじめています。

そのような中、山口大学教育学部においても附属学校園の存在意義、存在価値をあらためて問い直しつつ、よりよい附属学校園の運営をめざして改善に努めているところです。

平成29年8月に出された「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」では、附属学校が早急に取り組むべきこととして、「①校長の常勤化」、「②教員の働き方改革のモデル提示」、「③地域住民の参画を含む学校運営の改革」、「④成果の追跡と深化」、「⑤特色等の明確化のための仕組み」の五つがあげられています。

山口大学教育学部では、そのうちの「①校長の常勤化」について、本年度から附属山口中学校と附属光中学校において校長を常勤化することになりました。平成30年度末の大学教員の校長兼務任期の終了にあわせ、本年度から山口県教育委員会との人事交流による校長職がおかれるとともに、新たに教頭職もおかれることになりました。

申し遅れましたが、昨年度まで副校長を務めておりました末永勝明と申します。この常勤化にともない、4月に校長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ところで、山口大学では平成28年度からの第3期中期目標・中期計画（6年計画）により、山口地区附属3校園（やまぐち学園）における幼小中一貫教育の実施を位置づけています。昨年度、3校園の学園目標を「発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場」、また、めざす人間像を「よりよい未来を共に創り出す人間」と掲げました。12年間の子どもたちの学びや育ちを確かなものにするために欠かせないことは、最終的にめざす子どもの姿や、教育目標をひとつにすることで三つの学校園の教育活動に一貫性・系統性をもたせることです。3校園がひとつのチームになり、同じゴールに向かって日々の教育活動を展開していくことにより、いっそうその教育活動が効果的になり、より多くの成果が上がります。

そしてこの3校園のめざす人間像をうけ、本校では本年度、中学校としての学校教育目標を「かこ昨日よりも今日を いま今日よりも明日を いま～まえむき・ひたむき・さわやかな学校～みらい」としました。

現代社会において、私たちを取り巻く環境の変化には著しいものがあり、今後はその変化のスピードがさらに速まっていくことが予想されます。今の中学生が大人になったとき、いったいどのような社会になっているのでしょうか。まさに予測困難な時代です。

だからこそ、日々の生活はもちろん、長い見通しで考えたときも、明日を、来年を、次代をよりよく生きる力を身につけていくことが求められます。自ら課題を発見し、その課題を自分ごととして受け止め、自ら周りの人々とともに、その解決に、まえむきに、ひたむきに取り組む、そのような生徒をはぐくみたいと考えています。

おわりになりますが、やまぐち学園では本年度から学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしてもスタートをきりました。保護者の皆様や地域の皆様のお力もお借りしながら、「すべては子どもたちのために」学校運営の向上に努めてまいります。保護者の皆様にとっても、また地域の皆様にとっても「開かれた学校」でありたいと考えておりますので、どうぞお気軽に学校を訪ねていただき、本校の様子をご覧いただくと幸いです。